

# 平成 28 年度 豊中市総合計画審議会 第 1 回会議 議事要旨（案）

日 時	平成 28 年（2016 年）9 月 20 日（火） 10 時 00 分～12 時 00 分
場 所	豊中市役所第二庁舎 3 階大会議室
出席者	赤井委員、赤尾委員、加藤委員、國定委員、宗前委員、大澤委員、廣瀬（淳）委員、廣瀬（史）委員 計 8 名
欠席者	齊藤委員 計 1 名
事務局	豊中市企画調整課：足立、福山、糸井、榎本、上野
傍聴者	14 名
案 件	1. 会長の選出について 2. 第 4 次総合計画基本構想（素案）の諮問について 3. 総合計画の策定スケジュールについて 4. 専門部会の設置について 5. 第 4 次総合計画基本構想（素案）について審議 6. その他
資 料	資料 1「豊中市総合計画審議会に係る規則等について」 資料 2「豊中市総合計画審議会 委員名簿」 資料 3「第 4 次豊中市総合計画策定スケジュール（案）」 資料 4「総合計画審議会 専門部会の設置について」 資料 5「第 4 次豊中市総合計画基本構想（素案）」 参考 1「第 4 次豊中市総合計画基本構想（素案）についての諮問書の写し」 参考 2「市民フォーラムにおける『まちの将来像（案）』への意見について」 参考 3「総合計画等調整特別委員会における『第 4 次豊中市総合計画基本構想（素案）への意見について』」

会 議 録 下記のとおり

## ●開会

## ●市長挨拶（浅利市長）

## ●成立要件の確認

事務局

「豊中市総合計画審議会規則」では成立要件として委員の過半数の出席を必要としております。本日は委員総数 9 名中、8 名の委員にご出席いただいておりますので、成立要件を満たしております。

## ●案件と資料について

事務局

（案件と資料について説明）

## ●審議会説明、会議の公開について確認、委員紹介、事務局紹介

事務局

（資料 1、資料 2 に基づき説明及び紹介）

## ●「1. 会長の選出について」

（豊中市総合計画審議会規則の第 6 条第 2 項の規定により、会長を委員の互選により決定）

会長・・・加藤委員

（豊中市総合計画審議会規則の第 6 条第 4 項の規定により、会長職務代理者を会長の指名によ

り決定)

会長職務代理・・・赤尾委員

●「2. 第4次総合計画基本構想（素案）の諮問について」

会長

それでは続きまして、案件「2. 第4次総合計画基本構想（素案）の諮問について」に移りたいと思います。では、浅利市長から当審議会に諮問を受けたいと思います。

浅利市長

（諮問）

●「3. 総合計画の策定スケジュールについて」

会長

では、続きまして案件「3. 総合計画の策定スケジュールについて」に移りたいと思います。まず事務局からご説明を受けたいと思います。

事務局

（資料3「総合計画の策定スケジュールについて」説明）

会長

事務局からスケジュールについてご説明いただきましたけれども、これに関してご質問ございましたらお伺いしたいと思います。

委員

特になし

●「4. 専門部会の設置について」

会長

続きまして案件「4. 専門部会の設置について」に移ります。では、事務局からご説明お願いします。

事務局

（資料4「総合計画審議会 専門部会の設置について」説明）

会長

事務局より専門部会についてご説明いただきましたが、ご質問等ございますでしょうか。

委員

専門部会は1回だけの開催予定なのでしょうか。増える可能性もあるのでしょうか。

事務局

専門部会は1回を予定していますが、検討の対象範囲が広いこともありますので、審議の進展具合によっては2回、3回となる可能性もあると考えております。

会長

対象範囲が広い分、議論をすれば時間を要することになると思いますが、各部会とも臨機応変に審議していただきたいと思います。そのほかいかがでしょうか。

委員

資料4によりますと、「専門部会に属すべき委員は、委員のうちから会長が指名する」となっていますが、委員が立候補することはできるのでしょうか。また、委員が両部会に参加することも可能なのでしょうか。

#### 事務局

会長とのご相談になるのですが、両部会にご参加いただけるということでしたら対応させていただきますと思います。

#### 会長

基本的に専門部会はテーマを決めて個別に集中的により深く議論する場だと認識しております。専門部会だけではなく本審議会もごございますので、そこでも議論ができる体制とはなっておりますが、両部会に入っただけということであれば、それを妨げることはないとは私と考えております。

### ●「5. 第4次総合計画基本構想（素案）について（審議）」

#### 会長

案件「5. 第4次総合計画基本構想（素案）について（審議）」に入っていきたいと思えます。事務局、ご説明をお願いします。

#### 事務局

（資料5「第4次豊中市総合計画基本構想（素案）」説明）

#### 会長

「第4次豊中市総合計画基本構想（素案）」は事務局が一年ほどかけて考えていただいたもので、膨大な資料となっております。本審議会においては、基本構想については2回ほど議論の時間をもちたいと考えております。基本構想についてご意見質問等があればお願い致します。

#### 委員

第1章の計画のフレームワークについて教えていただきたいのですが、p.4「3. 分野別計画との関係」とありますが、総合計画の下に位置づけられている分野別計画はどれくらいあるのでしょうか。また、それら分野別計画は総合計画とどの程度、整合がとれているか教えて下さい。

#### 会長

総合計画において、基本構想と整合がとれているのか、基本計画とも整合がとれているのか、2つのレベルの問題があるかと思いますが、事務局いかがでしょうか。追って資料等が必要であれば、次回でも結構です。

#### 事務局

次回、整理してお示しさせていただければと思います。  
図のデザインに関しましても、検討させていただきます。

#### 委員

整理していただく際には、一例でも結構ですので、それほど負担のかからないかたちで整理していただければと思います。総合計画は市民の変化をアウトカム指標で進捗管理を行っていくというのがここ10年くらいの流れだと思いますが、総合計画は役所の計画でもあり、予算配分など、お金の使いみちのガイドラインにもなるものだという側面があります。アウトカム指標を重視しすぎると、役所としての経営計画としての意味合いが薄まる可能性がありますので、分野別計画など具体的な現場での動きと上位計画である総合計画との間にずれを生じさせないためにも、計画間の整合をとっておく必要があると感じましたので、ご質問させていただきました。

#### 会長

基本構想は10年間は変えないということですので、自ずと大きな考え方や表現にならざるを得ないのですが、基本計画については来年、下位の計画についても参照しながら、時間をかけて審議していけたらと思いますので、よろしくお願ひ致します。その他いかがでしょうか。

#### 委員

p.4に分野別計画が示されていますが、豊中市として分野別計画の優先順位はどのように考えているのか、そこに豊中市ならではの考え方が表現されるとおもしろいと思います。分野別計画を横並びに扱うのか、優先順位をつけていくのか。プライオリティを意識しながら、審議できると良いと思います。

#### 事務局

優先順位をつけるかどうかに関しましては基本計画の中での議論になるかと思いますが、基本計画の中では、重点施策やリーディング事業などを考えていけたらと思っております。

#### 委員

p.22「みらい創造都市」という言葉がでてきますが、「創造都市」をどのように理解し、定義されているのか教えてください。

#### 事務局

ご指摘により、「創造都市」という言葉をきちんと理解せずに使っていた面もあったかと思ひます。事務局としましては、次期総合計画は、次世代の豊中市の基礎となる取組みに着手していくものではないかと考えておりまして、次の豊中市の礎をつくるという意味合いで「創造都市」という言葉を使っております。ですので、学術的な「創造都市」とは少し違った意味合いだと思っております。

#### 委員

「創造都市」「クリエイティブシティ」というとグローバルに使われている概念です。日本では同志社大学の佐々木雅幸教授が「創造都市」について業績をお持ちですので、次回でも構ひませんので、佐々木雅幸教授の業績について参考にしながら、「創造都市」という概念がどういった経緯で登場したのか、また豊中市として「創造都市」という言葉にどういった意味を込めたいのか、そのあたりを明確にしたら良いのではないかとと思ひます。

#### 会長

貴重なご指摘ありがとうございます。

#### 委員

事業を行うにはどうしてもお金が必要になってきます。税金をどこから捻出するのか、そこを考えておく必要があると思ひます。皆さんご承知の通り、日本の人口ピラミッドは逆三角形に近いかたちをしています。10年、20年先はその傾向がもっと強くなるのは明らかです。こうした状況は豊中市も同じです。人口を増やしていくといっても誰を増やすべきなのか。高齢者は社会保障費などがどうしても高くなってしまふので、増やすのであれば働く世代、労働人口だと思ひます。働き、何かを創造していける、そういった世代が増えないことには、活性化にはつながらないのではないのでしょうか。

専門家の話によれば、健康で長生きをするためには働くことが重要なようです。生涯現役で夢をもって仕事をしている人は高齢であっても、元気で長生きする人が多いということが統計的に明らかになっているようです。反対に定年で仕事をリタイアして遊ぶ人は病気になりやすいということです。豊中市としても高齢者が病気にならないようにする取組みも重要だと思ひます。

総合計画などを策定するにあたっては、どのような人口構成を想定して計画するのかという点が重要な意味を持ちます。健全な財政状況の中で、適切な事業を行っていくためには、企業をどんどん誘致して、働く人口を増やしていくというのが大事な視点だと思ひます。

## 会長

一億総活躍社会を迎え、委員のご指摘はまさしくその通りだと思います。一般的に女性の寿命が男性よりも長いのは、健康志向が高いというのはもちろん、家事という仕事があるというのも大きな要因となっていると思います。

そのほかご意見等はございませんか。

## 委員

総合計画は大きな計画なので、細かいところまでは記載できないのは仕方のないことだと思います。ただ、ある一定程度は豊中市らしさを表現していくことは重要だと考えます。私からは3点ございます。

まず、全国の他の自治体と比べて、豊中市らしさがどのようなところにあるのかというところが現状分析の段階でもう少し明らかになっていた方がイメージしやすいのではないかと思います。また10年前と比べて、豊中市にどういった変化が起こっているのか、そしてこれから先、どういった変化が予想でき、どういった方向性でまちづくりを進めていくのか、そのときに他の自治体との違い、つまり豊中市らしさをどう捉えてどう動いていくのか、そういったところが明確に示されていると、読み手に対し、よりイメージとして伝わるのではないかと思います。もちろんすでにたくさんのデータをお示しいただいているのですが、他の自治体と比較してどうなのかといったデータがもう少しあると良いのかなと思います。防災など他の自治体とはあまり違いの現れない部分もあるとは思いますが、施設整備や人口構造など、他市と比べて特徴的な違いがある部分というのを示せば良いと思います。

2点目は財政に関してなのですが、p.20にも記述がありますが、10年前とどう変わって、今後10年を見据えてどうやっていきたいのかというのがもう少し書けるのではないかと思います。財政は将来世代との関係が大きいので、将来世代の負担がこの10年でどれだけ減少したのか、このまま減少を続けられるのか、あるいは増えていくのか。そのあたりの記述を厚くしてはどうかと思います。財政状況がこの10年でどう変わり、この先の10年でどう変わる予定なのかというところを表現できると良いと思います。

3点目は豊中市の中に着目したときに、地域ごとに課題が違ふと思いますので、地域ごとの所得格差が過去10年でどう変わったのかというのが分かることと議論の参考になるように思います。実際、計画内に地域ごとの違いを書くのはあまり得策ではないと考えますが、所得格差が縮まったのか、あるいは拡大したのかということが分かること、今後どこに負担を求めていくのか、税を使うのか、サービスを使うのか、あるいはどこを切り詰め、どこに集中していくのかという部分において、議論がしやすいように思います。ターゲットや負担の求め先をどう設定し、どういう施策を講じていくべきなのかといった実際的な議論をしていくためにも、地域ごとの所得格差などのデータが参考になるように思います。

## 会長

施策体系のどこに位置づけていくのかということも含め、今後、議論が必要なように思います。所得格差をどう捉えるのかという考え方を基本構想に入れるのか入れないのか、そこも考えていかなければならないように思います。

## 委員

細かい政策をどうするのかといった議論は次の段階になるのだとは思いますが、今回の資料の中には地域の違いがどうなっているのかといったデータや情報が出ていなかったように思いますので、地域特性が明らかになれば、豊中市としてどこにお金を使っていくのが良いのかといった方向性が導きやすいと思いますので、可能な範囲で示していただければと思います。

## 会長

事務局いかがでしょうか。

## 事務局

ご意見ありがとうございます。

豊中らしさということで申しますと、p.26からの施策体系のところ「子ども・若者が夢や希望をもてるまちづくり」を一番目に出しているというのが豊中市らしさの現れだと考えています。豊中市に転入してくる世代としては45歳以下の若い世代が千里を中心に多く流入してきているという状況があります。子ども・若者が住みやすいようにしていきたいというのが

「豊中市まち・ひと・しごと総合戦略」の考え方もありますし、総合計画においても引き継いでいきたいとテーマだと考えています。

先程、委員からもご意見を頂戴しましたが、高齢者が増加していく中で、地域包括ケアという考え方もございますが、健康でいきいきと働き続けてもらうような体制を整えていくことも今回の総合計画における大きなテーマの1つだと捉えています。この点につきましては、豊中市らしさというより、全国的なテーマだと言えるかもしれませんが、豊中市としても重要なテーマとして取り扱っていききたいと考えております。

財政状況が10年前と比べてどうなっているのかということについてですが、非常事態宣言を出すなど非常に厳しい状況にあったのが平成16年に黒字転換し、この10年間は黒字を続けています。非常事態宣言も平成25年によりやく解除できました。しかし、平成16年頃は市としての貯金、いわゆる基金がほとんどなかった状況でしたので、これからは市有施設の再編などを通してより効率化を図っていくなど、基金を増やして財政基盤を整えるというのが財政面の大きなテーマだと認識しています。

所得格差についてのデータは今回お示していませんが、これまで豊中市は生活保護受給者数が他市に比べて少ない状況だったのですが、過去10～15年で他市並になっていますので、具体的な数字はお示しできませんが、所得格差は拡大傾向にあると言えるかと思えます。こうした状況も踏まえながら、今後、施策等についても検討していきたいと考えております。

#### 会長

データとして出せるかどうかという問題はあると思いますが、国が所得格差の問題を請け負って、自治体が地域格差の問題を請け負うというのが、大きな動き方としてあると思えます。

#### 委員

子育て関連の施策であれば市としてできることもあると思いますが、雇用の対策などは大阪府や大阪府が大きな役割を担うこととなりますので、市としてできることが限られた中でどう動いていくのか、危機意識を持って取り組んでいく必要がある気がします。

#### 会長

問題として認識できても、できることも限られているといった中で、どのような施策を講じ、取り組んでいくのか、考えていかなければならないように思います。所得格差は他市と比べてどの程度あるのかといったようなデータは取り出すことは可能なのでしょうか。

#### 事務局

国のビッグデータを活用した地域経済分析システム、いわゆるリーサスでは地域別の所得は分析できますが、町丁別までの詳細なデータは取り出すことはできません。

#### 委員

国勢調査でも把握できないのでしょうか。

#### 事務局

国勢調査に関しましては、平成27年の最新の調査結果が速報値しか出ておらず、まだ確定値が公表されておりません。総合計画を策定する段階には公表されると思えますので、公表され次第、更新していくことを予定しています。

#### 委員

では、豊中市の納税者や所得のデータなどはあるのでしょうか。

#### 会長

可能であれば、次回にでもご用意いただければと思います。

#### 事務局

検討いたします。

#### 会長

ほかにご意見等ございますでしょうか。

## 委員

先程からも議題にあがっていますが、第3章～第4章あたりで豊中らしさを出せると良いと思います。豊中市は地域ごとカラーがあるまちですので、市民としても自分の住んでいる地域の課題や将来像が書かれている方が分かりやすいのではないのでしょうか。地域ごとのカラーが強いだけに、全体を一括りにするとぼんやりとしてしまうように思います。全体を一括りにした書き方をするのであれば、地域ごとの課題や将来像なども書き加えるなど、地域特性を活かした表現方法を検討してみてもいいのではないでしょうか。

## 事務局

地域ごとの特色を出してはどうかといったご意見は、特別委員会でもいただきました。豊中市では総合計画の策定と並行して都市計画マスタープランも作成しており、前回の都市計画マスタープランでは地区別の計画を作っています。今回の都市計画マスタープランにおいても、地域特性を見つめながら策定作業が進められており、総合計画においても基本計画の段階ではもう少し、地域に焦点をあてる構成にしていきたいと考えております。

## 会長

委員のご指摘は、おそらく基本構想に地域ごとの多文化共生やダイバーシティの考え方をいれるのか入れないのか、そういった議論になると思います。地域ごとの特性に応じた具体的な事業等については、基本計画レベルにはもちろん入ってくるのですが、この先10年を見据えた豊中市の基本構想としては、全体を一括りにするのではなく、地域特性を意識したコンセプトを持っておくべきではないかというご指摘だったように思います。

まちの将来像について私の意見も言わせていただきたいのですが、案1「みらい創造都市とよなか～明日がもっと楽しみなまち～」は成長路線的な意味合いを含んでいるように感じます。案2「暮らし・夢・育み～明日がもっと楽しみまちとよなか～」は旧態依然とした富の再配分のイメージを抱いてしまいます。どちらもそれぞれの良さがありますが、個人的には案1の方が良いように思います。格差を是正しながらの成長路線というのが全国的な、あるいは世界的な方向性だと考えています。次回の審議会では4章、5章あたりを中心に議論を続けたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

## 委員

まちの将来像に向かってどうしていくかというのが大筋の考え方だと思いますが、第4章はボリューム的に薄いように感じますので、この部分を審議会での議論を通して厚くしていくべきではないかと思います。

また、p.24の図についてですが、この図で示されているように、施策大綱、施策体系などで書かれたことを積み上げることによってまちの将来像を実現するという考え方も分かりますが、まちの将来像の実現にむけての方策としての施策大綱や施策体系があるという考え方が基本であると考えています。そうしたことから、図の矢印が上向きになっていることが、個人的には少し違和感があります。

## 委員

総合計画は大きい計画ですので、網羅的にならざるを得ない部分がありますが、市民感覚では範囲が多岐にわたるぶん、プライオリティがないと分かりにくいように思います。総花的に書いていても、限られた財源と期間の中で、書いているすべてのことに対して取り組み、成果をあげることが可能なのかが見えてこないように思います。これから豊中市は何に重点を置いて、まちづくりを行っていくべきなのか。これについては今後、議論を重ねていく必要があるように思います。

## 会長

議論を重ねながら、総花的にならないようにしていかなければならないように思います。財政状況の変化なども考慮しながら、10年間きちんと機能するコンセプトを作って、審議会を進めていきたいと思っております。ほかにご意見等はございませんでしょうか。

次回は第4章、第5章を中心に議論をしていきたいと思ひます。事務局には今回、ご指摘のあった資料、データについては次回、ご報告していただきたく思ひます。では、本日の審議を終了させていただきます。

## ●「6. その他」

**会長**

では案件「6. その他」について、事務局からご説明お願い致します。

**事務局**

案件「6. その他」として、今後のスケジュール等について連絡事項がございます。  
(今後のスケジュール等について説明)

**会長**

連絡事項についてご質問やご意見等はございませんでしょうか。

本日の審議はすべて終了いたしましたので、これをもちまして第1回豊中市総合計画審議会を閉会いたします。

ありがとうございました。